

第1回 森の復元プラットフォームセミナー  
講師 徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授  
鎌田 磨人 氏

## 四国の森林×グリーンインフラ×SDGs

2021年11月7日(日)にNPO法人由良野の森主催の「第1回 森の復元プラットフォームセミナー」がサイボウズ松山オフィスにて開催された。会場とウェビナーをあわせて約60名程度参加し、森の復元プラットフォーム形成に向けた動きが本格的に始動した。

森の復元プラットフォームは地域に所属しているあらゆる組織・人で失われた森を復元することを目的として設立を目指している。本セミナーは、その意義や理解を深めるために実施するものである。記念すべき第1回のセミナー登壇者は、徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授・鎌田磨人氏で、講演タイトルは「四国の森林×グリーンインフラ×SDGs」であった。

講演は、プラットフォームを作る意味がよく理解できるよう、「森の価値とは何か？森は我々に何をもたらしているのか」という問いかけから始まった。森林は我々人類において、「緑の社会基盤(Green Infrastructure, 以下グリーン・インフラという)」である<sup>1</sup>。重要なことは、通常の世界資本との違いを認識することである。通常の世界資本は人々が安心・安全に暮らしてゆくためのサービスを提供するため、建設、運用、維持管理のための費用を投入・投資してきた結果、社会に蓄積された資本のことをいう。しかし、グリーンインフラは人々が安心・安全に生活してゆく上で必要な公共財であることを認識し、生態系から提供されるサービス<sup>2</sup>を持続的に得られるよう、維持管理のためのコストを支払いながら資本を運用してゆく「仕組み」のことを指す。したがって、森林は復元するだけでなく、その後の維持管理の仕組みづくりまで視野に入れる必要があるということになる。

四国の森林の多くは人工的土地利用であり、植生自然度は全国的に見ても低い。植生自然度が低いということは、スギやヒノキなどの針葉樹が多いことを意味する。針葉樹が多いことが悪いことではないが、人口減少社会において、林業の担い手が急減しており放置林面積が急速に拡大していくことは大きな脅威である。人工的な針葉樹が整備されないと、地面に届く日光量が減少し、それにより下草の生育が悪くなり、結果として保水力が失われる。また、人がいなくなることにより、鹿

---

<sup>1</sup> 人々に、便利な暮らし、安全、良い環境、活力を提供する施設と、その建設・運用・維持管理システムのことをいう(土木学会会長提言特別委員会インフラ国勢調査部会 2008)。

<sup>2</sup> 生態系サービスは、光合成により酸素を供給したり人々に癒やしを供給したりするなどの基盤サービス、我々への生活物資などの供給サービス、観光資源や信仰などの文化サービス、保水などの調整サービスに大別できる。

などの草食動物が急増し、下草を食すため、保水力が加速度的に低下する。このことは、森林が提供するサービスのうち、調整サービスとしての機能が低下することを意味し、結果として土砂災害や水不足などの脅威が増えることになる。そのために、人工林に偏っている森林を、自然植生を豊かな森林に復元することが急務となる。

四国内では、徳島県上勝町の高丸山千年の森が先進的な事例である。森林伐採跡地の自然林回復のポテンシャルを把握し、回復可能であれば、どのような樹木を植えるのか、ゾーニングをどうしていくのかを検討し、実際に植樹が始まっていく。そして、その後の経過観察を行っていくために、様々なボランティア団体が森作りに関わる。

最後に、SDGs との関係から森林の立ち位置を検討してみよう。我々人間は、経済社会システムの中で生活をしている。経済社会システムの中で森林はそれほど大きな関わりを持たないように見えるが、その考え方は誤解である。上述のように、我々はグリーン・インフラとしての森林から、財・サービスの原材料供給や健康増進、学びの機会、安全な生活環境などの様々なサービスを楽しんでいる。これらのサービスを楽しんでいない人間はいないと言っても過言ではない。だからこそ、森の復元を実現するために、協働の仕組みとしてのプラットフォームを形成していかなければならない。

受けている恩恵が当たり前過ぎて、「森の価値を忘れている」ことがあってはならない。我々の社会経済システムは、グリーン・インフラがあってこそそのシステムである。持続可能な社会の構築は、持続可能なグリーン・インフラ(自然環境)が大前提である。

なぜあらゆる人・組織がこの問題に取り組まなければならないのかが、非常に明確になった。セミナーの参加者は、みんなが取り組まなければならない問題であることが理解できたのではないかと思う。第1回森の復元プラットフォームセミナーとして、ふさわしい講演であり、セミナーの趣旨を深く理解し、講演内容を考えていただいた鎌田磨人氏に改めて感謝し、敬意を評したい。

特定非営利活動法人由良野の森 運営委員

松山大学経済学部経済学科教授

熊谷太郎